

わが

すべては市民の幸せのために

「未来へつなぐ 心安らぐ 国際文化都市」を目指して

国際色豊かな文化都市

三沢市は、青森県の南東部に位置し、東は太平洋、西は小川原湖を臨み、世界的に重要な湿地としてラムサール条約に登録された「仏沼」をはじめとする、豊かな自然に恵まれております。

現在は、米軍・航空自衛隊・民間航空会社が共同使用している全国有数の航空施設がある「大空のまち」として、約4万人の人口に加え、約8000人の米軍人、軍属およびその家族が住んでいることから、5人に1人がアメリカ人と



味も鮮度も抜群の「三沢昼イカ」

いう、異国情緒漂う国際都市として独自の発展を続けております。
昭和6年

（1931年）10月、三沢市淋代海岸から、クライド・パングボーンとヒュー・ハーンドンという2人のアメリカ人がミス・ビードル号を操縦し、飛行時間41時間10分を掛けて人類初の太平洋無着陸横断飛行に成功した後、本市は航空上の重要地点として世界的に認められました。戦中は旧海軍の航空基地が置かれ、戦後は米軍が駐留することになったほか、ミス・ビードル号をきっかけとし、着陸地のアメリカ合衆国ワシントン州のウエナツチ市・東ウエナツチ市の姉妹都市交流をはじめ、アメリカンデー、国際サマーフェスティバル、米軍三沢基地・航空自衛隊三沢基地と共同で開催している三沢基地航空祭など、数々の三沢らしい国際色豊かなイベントも毎年開催されております。



「アメリカンデー」で行われる迫力満点のアメリカンパレード

その中でも毎年6月に開催されているアメリカンデーは、ハーレーや米軍使用車両など約500台、参加者約1000名の迫力満点なアメリカンパレードが行われます。また、50店舗を超えるアメリカンフードブースは単に「アメリカンな食」という意味ではなく、さまざまな州から米軍人が来てい

るため、その州のご当地グルメを味わうことができます。

アクティビティと観光施設

本市には海があり、湖があり、歴史があり、空の物語があります。アウトドアも遊びも楽しめる要素が満載で、「四季折々によって変化する自然を思いっきり楽しめる」ことも魅力の一つです。

本市に隣接する小川原湖は、遠浅なこともあり、「体感する小川原湖」として、初心者でもカヤックなどを体験しやすい環境です。また、普段見慣れた風景とは違った景色を湖面より見ることが出来ます。八甲田連峰をシルエットに、湖面へ輝きながら沈みゆく夕日は絶景です。

そして本市には鬼才・寺山修司のゆかりの地として、「寺山修司記念館」が建設されております。俳人、歌人、詩人、劇作家、劇団主宰、映画監督、エッセイスト、競馬評論家などその活動は多岐にわたる、「職業・寺山修司」といって



小川原湖の湖面から見える美しい夕景

三沢の魅力の世界に発信

三沢を実感することができます。本市は、年齢、性別、国籍など

しまうユーモアセンスを詰め込んだ、独特な世界観を味わうことのできる施設となっております。

他にも、空と深い関わりを物語る「青森県立三沢航空科学館」、国際交流の拠点施設「国際交流教育センター」、近代洋式牧場を開牧した斗南藩士・廣澤安任の紹介と、市の特産物を販売する「道の駅みさわ斗南藩記念観光村」など、全てのスポットで「国際文化都市」三沢を堪能することができます。



三沢市で昨年、実施された車いすラグビーの日本代表とカナダ代表の試合

のの違いを超えた共生社会の実現に向け、東京パラリンピックの事前合宿地として車いすラグビーカナダ代表チームの受け入れをはじめ、「ユニバーサルデザイン」の街づくりや「心のバリアフリー」絵画コンクールなど、さまざまな事業を積極的に進めてきたことが評価されました。また、内閣官房より東京オリンピック・パラリンピック共生社会ホストタウンの中から、「先導的共生社会ホストタウン」に認定されております。

新型コロナウイルス感染症の影響により、東京2020オリンピック・パラリンピック大会の開催が1年延期となりましたが、歴史に刻むオリンピック・パラリン

ピックの成功に向け、市民の皆さまと一丸となって取り組んでまいりますとともに、大会を通し、さらなる共生社会の浸透を図り、本市の魅力を世界に発信してまいります。

市民の皆さまの「健康と安全」を最優先に

国難ともいえる新型コロナウイルス感染症は、対応の長期化など

プロフィール

- ◆ 面積 119.87 km²
- ◆ 人口 3万9273人
- ◆ 世帯数 1万9470世帯

〔将来都市像〕未来へつなぐ 心安らぐ 国際文化都市

〔まちの特徴〕人類初の太平洋無着陸横断飛行を成し遂げた出発地とした大空と心豊かで国際性に富んだまち

〔特産品〕ゴボウ、ニンニク、長芋、三沢昼イカ、北寄貝、バイカ（豚バラ軟骨）、バラ焼き、こぼろ茶



三沢市長 小檜山吉紀



〔観光〕 寺山修司記念館、Sky Plaza Misawa、青森県立三沢航空科学館、道の駅みさわ斗南藩記念観光村

〔イベント〕 アメリカンカンデー、みさわ七夕まつり、三沢まつり、みさわ港まつり、三沢基地航空祭、MISAWA BBQ ジャンボリー、ハロウィンフェスタ in MISAWA

により、国内経済が大きく減速しており、市内経済も深刻な状況となっております。このような状況下にあつて、市民の皆さまが今後の先行きへの不安や閉塞感を抱える中、市民の皆さまの「健康と安全」を最優先に考え、「新しい生活様式」の定着を図りながら、市民生活の維持・安定のため、市民の皆さまとともに、この難局に立ち向かい、未来へとつないでまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

元気な笑顔があふれる 「みんなが輝く街、上尾」の実現を目指して

都市と自然が融合するまち

上尾市は、埼玉県南部に位置し、古くは中山道の宿場町として栄えました。市制施行当時は約3万7000人だった人口も22万9000人を超え、首都圏にありながら自然と調和した、埼玉県の中核を成す都市へと成長しました。



多くの人が利用するJR上尾駅。年間を通じて多くのイベントも開催

市街地を離れると、果樹園や農地などの田園地帯が広がり、市内全域に緑豊かな公園が配置されています。西境に荒川、東境に綾瀬川、中心部に鴨川と芝川が流れる、水

と緑に囲まれた、四季折々に趣のある自然豊かなまちです。

また、東京都心から約35kmの距離にあり、JR湘南新宿ライン・JR上野東京ラインの開通によって新宿駅や東京駅まで約40分と立地が良く、通勤、通学、買い物などに便利です。上尾駅周辺や郊外には商業施設が充実し、活気があり、住みやすいまちです。

子育てに優しいまち・ 豊かな学びを育む 子育て施設の充実

「家族の夢はあげおで叶う」をモットーに子育て支援に力を注いでいます。

妊活・妊娠から子育て期にわたる切れ目ない支援を行う「あげお版ネウボラ」の窓口として、「子育て世代包括支援センター」を開設

しました。助産師の資格を持つ専任のコーディネーターが、妊娠中の生活や子育てに関する相談に寄り添っています。

令和元年6月からは、産前産後の育児不安や、育児負担を軽減する「産前産後ヘルパー派遣事業」や「産後ケア事業」「産後カフェ事業」などを開始しました。また、市内13カ所の「地域子育て支援拠点施設」で出張相談を行い、身近な窓口としてご利用いただけます。

これらを通じ、安心して妊活・妊娠・出産・子育てができるよう、今後も切れ目ない支援を行っていきます。

また、市内には62の「保育施設」、40の「放課後児童クラブ」、18の「幼稚園」、そして児童館は「アップੀランド」と平成23年の

調査で来館者数全国1位を記録した、「こどもの城」の2カ所があります。

現在、令和5年度開設を目指して、保育所、児童発達支援センター、発達支援相談センターを複合する「(仮)子ども・子育て支援複合施設」の整備を進めています。子育て関連施設が抱える問題を、公共施設の在り方を見直しつつ、複合化することでより効果的な施設運営ができると考えています。多様性を認め合い共に学び、お互いを理解し合いながら、豊かな人間性を育んでもらいたいと思います。



令和5年度の開設を目指す「(仮)子ども・子育て支援複合施設」(イメージ図)

学ぶ意欲を育む、 先進的な教育環境

全小・中学校33校にALT(外国語指導助手)を配置し、小中9年間を見通した英語教育を推進し、日常的に「生きた英語」に慣れ親しむ環境をつくっています。

また、県内でもいち早く全小・中学校・全普通教室へ大型モニタを設置したほか、学習者用端末や教師用デジタル教科書の導入、普通教室や特別教室、体育館への無線LAN環境を整えています。

さらに、小学校でのプログラミング教育必修化を受け、本年度から各教科などの授業においてプログラミング教育を実施し、ロボットプログラミング教材を整備するなど、時代に適した教育を行っています。



ALTに学ぶ生きた英語

グローバル化の進展や技術革新の時代を迎え、子どもたちの学ばず意欲を育み、社会の担い手として活躍できるように教育の一層の推進・充実に努めています。

いざというときに備え、 さらなる防災力を強化

本市は、「防災に強いまち」を目指し、防災力のさらなる強化に取り組んでいます。災害対応に向けた迅速な情報伝達として、「安否確認・一斉通報システム」や、移動支援の迅速化を図る「避難行動要支援者システム」などを導入しています。

また、指定避難所における感染対策について、市独自のガイドライン作成や、市総合防災訓練の内容を全面的に見直し、劇場型の訓練から、より実践的な訓練へ移行しました。ドローンやスマートフォンによる被災現場・避難所と本部との連携訓練や、コロナ禍の備えとして、パターションを設置した避難者受け入れ体制の検証など、さまざまな状況を想定して取り組んでいます。

さらに、上尾市防災士協議会と連携し、「マイ・タイムライン作成キット」を導入し、活用を推進しています。
いざというときに備え、普段から準備や心構えをし、さらなる防災強化に努めます。

「みんなが輝く街、上尾」 の実現を目指して

本市は平成30年に、市制施行60周年という記念すべき節目の年を迎えることができました。本市の発展にご尽力をいただきました皆さまに心より感謝申し上げます。

コロナ禍の長期化により、市民生活を取り巻く環境は大きく変化しました。この間、昼夜を問わず懸命

に治療に当たってくださいている医療機関の皆さま、細心の注意を払いながら福祉現場を支えてくださっている皆さまなどのご尽力によって社会生活が維持されています。今後も市民の皆さまのお力添えをいただきながら、真に必要とされる事業を積極的に展開し、元氣な笑顔があふれる「みんなが輝く街、上尾」の実現に向け、全力で市政運営に取り組んでまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 45.51km²
- ◆ 人口 22万9332人
- ◆ 世帯数 10万3484世帯

〔将来都市像〕「笑顔きらめく、ほっとなまちあげお」

〔まちの特徴〕埼玉県南東部に位置し、武蔵野の面影を残す自然環境と近代的な都市環境が調和した都市

〔特産品〕キウイフルーツ、ナシ「黄金の雫」、ブドウ、トマト



上尾市長
畠山 稔



〔観光〕上尾丸山公園、上尾市自然学習館、あげおお土産・観光センター、上尾市民球場など

〔イベント〕上尾さくらまつり、あげお花しょうぶ祭り、上尾夏まつり、平方のどろいんぎょ、あげお花火大会、あげお産業祭、上尾シティハーブマラソン、あげおイルミネーションなど

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

笑顔の花咲くまち 大和高田

自然環境や歴史文化に
あふれた交通至便のまち

大和高田市は、奈良県の北西に位置し、古くから交通の要衝として、また、県中南部地域を代表する

商工都市として発展してきたまちです。金剛山地の美しい山並みを望む16・48kmの市域に、本年10月1日現在、およそ6万4000人の市民が暮らしています。市内には、JR線2路線、近鉄線2路線の計4路線に二つの特急停車駅を含む六つの鉄道駅があり、これらを利用すれば大阪都市圏まで約30分で行き来することができます。また、南阪奈道路や京奈和



県内有数の桜の名所「高田千本桜」

自動車道と連絡する大和高田バイパスや県中部を東西に貫く中和幹線道路などの道路交通網も整備されており、近年は、大都市圏に近接した交通至便の住宅都市としての色彩を強めています。

市中央部を南北に流れる高田川沿いの大中公園は、県内有数の桜の名所「高田千本桜」として知られ、春には、川の兩岸約2・5kmにわたって見事な桜が咲き誇り、県内外から多くの方々にお越しただいています。

活気あふれるにぎわいの
まちを目指して

本市では古くから商工業が盛んに行われ、まちは産業の発展と共に歩みを進めてきました。商業は、明治時代以降、鉄道駅の開設や日紡高田工場が立地していたことなどにより繁栄をし、最盛期には大変なにぎわいを見せました。現在も市内には数多くの商店街が存在しています。また工業については、本市は全国有数の繊維関連製品の産地として知られ、高度な

技術力と応用力を誇っています。

しかしながら、近年は繊維関連工業分野における海外輸入製品や他素材製品の攻勢、郊外型大型店舗の進出などによる影響を受け、

本市の産業は減退傾向にあります。これは、市全体の活力に関わる大きな問題であり、大変憂慮すべき事態であると捉えています。

そこで、本年度、地域経済の発展に欠かすことのできない中小企業の支援を進めるべく、産業構造や地域課題が類似する隣接自治体と協働して、ビジネスサポートセンター「K o c o o B i z (コンビズ)」の設立準備を進めています。

この取り組みは、事業者や起業希望者が抱える創業、商品開発、他業種とのコラボ、事業承継などといった課題に対し、有識者や協力団体などが強力にサポートするための公的支援機関の設立、運営を進めるものであり、奈良県内では初めての試みとなります。従来では連携する機会のなかった企業



大中公園に整備された浮舞台「桜華殿」

間でのイノベーションの創出や事業者の収益力の強化を図ることによって、起業者の増加や事業後継者の確保、域内雇用の拡大などにつなげ、地域経済の活性化を進めていくことができると考えています。

「笑顔の花咲くまち 大和高田」の実現に向けて

本市は今、加速的に進行する少子高齢化や人口減少の影響を受けて、非常に厳しい状況に直面しています。このような状況を乗り越



二上山と桜華殿

え、将来に向けて発展を続けていくためには、常に変化する社会環境をこれまで以上に的確に見極めながら、しっかりと先を見据えた行政経営を行っていかねければなりません。

そこで、令和元年度に、市の進むべき方向性を市民の皆さまにより分かりやすく伝え、そして急激な社会情勢の変化にも柔軟に対応していきけるよう、これまで数次にわたって策定を続けてきた総合計画に代えて、新たに「大和高田市まちづくりの指針」を策定しました。「大和高田市まちづくりの指針」においては、将来都市像

である「笑顔の花咲くまち大和高田」をみなで奏でる幸せのハーモニー」を実現するための六つの基本目標を設定し、さらにこの基本目標を実現するため、「医療・保健・福祉の充実」「若者世代・子育て世代が住みよいまちづくり」「災害に強いまちづくり」「産業の活性化」の四つの施策を、今後4年間の重点施策として位置付けました。本年度は、まずはこれに合

プロフィール

- ◆ 面積 16・48km²
- ◆ 人口 6万3933人
- ◆ 世帯数 3万235世帯

〔将来都市像〕笑顔の花咲くまち大和高田「みんなで奏でる幸せのハーモニー」

〔まちの特徴〕自然環境や歴史文化あふれる交通至便な商工都市

〔特産品〕靴下、パンティーストッキング、奈良さくらコットン、軟弱野菜



大和高田市長 堀内大造



〔きくな、こまつな、しろな、ほうれんそう、ねぎ〕

〔観光〕高田千本桜、横大路（日本最古の官道として日本遺産に認定）、弥勒寺（国指定重要文化財・弥勒仏坐像）、不動院（国指定重要文化財・本堂）

〔イベント〕高田千本桜、奥田運取り行事、高田おかげ祭り

せて、行政組織の大幅な改編や施策の進捗状況を検証する行政評価システムの一新などの取り組みを進めています。

市民の皆さまには「住んでよかった」「住み続けたい」、また、市外の皆さまからも「住みたい」と思っていただけ「笑顔で暮らせる大和高田市」を築けるよう、全力で市政運営を進めてまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

ココロまじわうところ 交流を深めた地域活性化を目指して

豊かな自然に恵まれた 城下町

宇和島市は、今から約400年前の江戸時代、仙台藩主・伊達政宗の長男である秀宗が治め、以来、宇和島伊達家10万石の城下町



現存12天守の一つ「宇和島城」

として栄えました。市の中心部に位置する宇和島城は、現存12天守の一つで、江戸時代に建てられたそのままの姿で現在も存在感を示しています。市の西側は、宇和島海に面し、複雑なリアス

式海岸が続いています。穏やかな湾内では魚類養殖が営まれ、また、海を見渡す段々畑ではかんきつがたわわに実るなど、海の幸、山の幸に恵まれた温暖で過ごしやすい地域です。

宇和島産の食材を全国の人に知ってもらいたい

「平成30年7月豪雨」では、未曾有の土砂災害により、段々畑が流されてしまうなど、基幹産業であるかんきつ栽培は大きなダメージを受けました。しかし、これをきっかけに農地の再編復旧などを進め、災害に強いまちにしようと、2年余りを経過した今もなお、国・県の力をお借りしながら取り組んでいるところです。同時に、魚類や真珠養殖などの生産現場でも自然災害のリスクが



マダイ養殖いけす

高まりつつあり、昨今の台風の頻発はもちろん、赤潮が発生して魚類や真珠の養殖に悪影響が及ぶ状況もあります。本市は、かんきつ王国愛媛の中においても中心的な産地の一つであることはもとより、魚類、真珠の養殖においても生産量は日本一であります。そのため、被害が発生した場合、生産者はもちろんのこと、周辺への影



ミカンの出荷

響も大きくなりますので、産地の責任として、産業を守っていく必要があると考えています。現在、コロナ禍により需要が減少したマダイの消費喚起のため、「#鯛たべよう」キャンペーンを打ち出し、官民が一体となって全国の小売業者に宇和島産のマダイをPRしています。今後はマダイに加え、出荷シーズンを迎えたブリ、かんきつや真珠・じゃこ天のPRもスタートする予定です。私のもとと水産会社で営業の仕事をしていただくこともありますので、特に広報には力を入れ、豪雨災害

時に支援をいただいた方々をはじめ、全国に向けてしっかりと売り込んでいきたいと考えています。

宇和島に愛着を持ってく れる人を育てていきたい

このような魅力あふれる本市ですが、一方で人口が毎年約1100人のペースで減少しているという現実があります。そのうち6割は、これまで本市を支えていたご高齢の方がお亡くなりになることなどですが、残りの4割は、高校を卒業した若者が進学や就職のため市外に出ていくことによるものです。

そういった意味では、仕事に対してどのような道筋をつくっていくかが重要です。本市では2年前から「おかえりプロジェクト」として、子どもたちの郷土愛醸成に力を入れており、地元の子どもたちに地域の魅力をいかに知ってもらえるかに注力しています。例えば、市役所内に「高校生まちづくり課」を作り、高校生たちが中心となってワークショップを開催するほか、高校生たちを含めた地元の青少年が自由に交流できる「青少年市民協働センター事業（ホ

リバタ事業）」に取り組み、彼らの柔軟な発想をまちづくりを生かしていきたいと考えています。

また、学校を卒業して市外に出ていった後も、SNSなどを活用して連絡を取り合う体制をつくっており、故郷から離れても本市の情報を積極的に伝えながら、いつかは戻りたいと、そう感じてもらえるようなまちづくりを展開しているところではあります。

いろいろな人が交わることで、より魅力的なまちへ

やはり、地域で育った子どもたちが、地域を盛り上げる担い手になってほしい、そして、彼らの活動を通じて「宇和島って楽しそうだね」という雰囲気が出て、他の地域からも人が訪れていただけるとうれしそうです。地元の人と市外から来た人のさまざまな価値観を交えて、新たな挑戦をする、そんな仕組みを作っていきたいと考えています。

このような中、令和元年に本市のキャッチコピーを「ココロまじわうトコロ」に決定しました。この「まじわう」という言葉は、宇和島（うわじま）を逆から読んだ

造語で、「人と人が関わり合い、心が通い合う」という意味を込めて



キャッチコピーとロゴマーク

います。

私自身、子どものころから育った本市の魅力は何と云っても人の「温かみ」だと思います。ウィズコロナ、アフターコロナの時代においては、ますます人と人のつながりが大切になってくると確信していますので、本市の今をどのように考え、次の世代に何を残していきたいか、みんなで考えることができる市政を目指していきます。

プロフィール

- ◆ 面積 468.19 km²
- ◆ 人口 7万3367人
- ◆ 世帯数 3万5899世帯

〔将来都市像〕継承・共育・発信のまち
 〓 世代を超えて、自然を愛し、歴史を誇るふるさと「うわじま」の実現を目指して

〔まちの特徴〕自然豊かな宇和海と鬼ヶ城連峰に囲まれた、歴史あふれる伊達10万石の城下町

〔市町村合併〕平成17年8月1日、宇



宇和島市長
岡原文彰

和島市、吉田町、三間町、津島町が対等合併

〔特産品〕真珠、マダイ、ブリ、しらうお、じゃこ天、宇和島鯛めし、ブラッドオレングジ、三間米

〔観光〕宇和島城、天赦園、遊子水荷浦の段畑、和霊神社、伊達博物館、道の駅ささいや広場、南楽園

〔イベント〕うわじま牛鬼まつり、闘牛大会、伊達なうわじまお城まつり、パールフェスティバルinうわじま



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。